

令和5年度 第2回野洲市学童保育所運営協議会 会議録

- I 日 時 令和6年1月25日(木) 19:00~20:00
- II 場 所 中主防災コミュニティセンター 研修室A・B
- III 出席者 〈運営協議会委員〉
野洲 まり子、周防 温子、山本 有希、奥野 圭美、香川 晴香
前田 直美
(以上保護者会会長)
木村 貞樹(市自治連合会)、浦谷 ふみ子(市民生委員児童委員協議会)
田中 源吾(市健康福祉部政策監)、水谷 威彦(社会福祉協議会事務局長)
西村 幸雄、立田 裕子、梶谷 明美、杉本 邦子、山本 絵美、太田 千鶴
(以上学童保育所所長)
〈事務局〉
益田 研(学童保育課課長) 中塚 幸代(学童保育担当)
〈市健康福祉部〉
村上 真規(こども課専門員)、今井 優希(こども課主事)
- IV 欠席者 奥野 晃彰(祇王小学校教頭)、

【内容】

- 1 開会
- 2 運営協議会会長あいさつ(木村会長)
- 3 報告事項
 - (1) 令和6年度 野洲市こどもの家(学童保育所)入所申請状況について
資料.1 令和6年度野洲市こどもの家(学童保育所)入所申請状況
令和6年度の入所申請は、期間「11/8~11」と「12/7~9」合計7日間(土曜2日含む)を窓口受付期間として設定し、また、今年度より新たにオンライン申請を導入しました。
オンライン申請については、専用フォームにアクセスしていただき、利用内容を入力することができ、「延長保育」「土曜保育」も同時に申請ができます。
また、必要書類は写真データ等を添付することで、総ての利用申請がオンライン上で完了します。
申請結果については、
 - ・入所申請者総数 1,157件(前年比+29名)
 - ・窓口受付 一次611件 二次137件 合計748件(65%)
 - ・オンライン申請 合計409件(35%)
資料.2 令和6年度野洲市こどもの家入所申請状況(令和6年1月23日現在)
令和6年度の入所申請結果を一覧にしてあります。
 - ・縦に、学年別 横に学区別で、それぞれ男女と保育種類別に人数で表している。
 - ・学年別では、新1年生の申請が、232名 前年とほぼ同数で引き続き200名を超える申請、また1~4年の学年区分で200名を超えている。
 - ・学区別では、祇王、三上学区を除き、前年より増加している。
 - ・野洲、中主学区では施設定員を超えての申請がある。

- ・全体では、受付総数に対する通年保育の申請率 80%（季節保育 20%）、
- ・施設定員（1,175）に対する利用率 98%
- ・令和 5 年 4 月 1 日（今年度スタート時）との比較では、合計で 32 名増加。
- ・今後のスケジュール 1 月末に結果通知発送
2/18（日）準備説明会開催（新入所児童の保護者対象）
個々の保護者の方と必要に応じて面談等予定

資料.3 野洲市こどもの家「土曜保育」申請状況（令和 6 年 1 月 23 日現在）

令和 6 年度「土曜保育」の申請状況を一覧にしてあります。

- ・1,152 名の入所申請の内「土曜日」の利用申請された児童数は 68 名となる。
（全体の内 6%利用）
- ・「土曜保育」については、市内全学区を対象に「北野学童保育所」の施設で合同保育を実施している。
- ・6 学区全てから利用申請があり、また全学年の利用申請がある。

会長 ただ今の報告について、ご質問等ございましたらお願いします。

（質問なし）

（2）令和 5 年度夏季保育における昼食提供とアンケート調査について

資料.4 昼食提供（試行）の取り組みと結果

取り組みについて 導入前の令和 3 年度に事前アンケート調査実施しました。

アンケート調査結果をもとに、地元業者を中心に提供していただける業者を選定して令和 4 年度、5 年度と試行的に昼食提供を実施しました。

夏休み期間での提供であり、暑さ対策を含み安全面を第一に考え、さらに期間限定での提供になること、1 日に 300 食程度の提供が可能なこと、時間内に各施設に配送可能な業者を選定して対応してきました。

今年も、夏休み期間の 8 月に 3 回「昼食提供」を行いましたので、結果を報告します。

- ・提供日時：7 月 31 日、8 月 7 日、21 日（月曜日）

結果、学区により多少差はありますが、合計で平均 1 日 350 食の提供（利用約 32%）することができました。

次に、令和 4 年、5 年の昼食提供を終えて、改めて保護者宛にアンケート調査を実施しました。

資料.5 学童保育所（夏季保育）における昼食の提供アンケート

昼食提供に対する保護者・児童の満足度等を把握するためのアンケート調査の様式

- ・調査期間：8 月 23 日～9 月 15 日
- ・調査方法：WEB アンケート
- ・回収状況：保護者数 1,021 人 回収件数 418 件（回収率 40.9%）

資料.6 施行に対する保護者・児童の満足度等を把握するためアンケート調査

アンケート調査に回答をいただいた内、ご利用いただいた 9 割近くの保護者の方に取り組みについて満足いただいている。

保護者負担の軽減を目的に導入を図った昼食提供のため、回答結果とご意見を踏まえ、利用率の向上を図れるよう取り組んでいきます。

今後は、一定需要があるところより、継続して取り組んでいくことと保護者の皆様や現場の指導員の負担軽減も図れるよう改善に努めていきます。

会長 ただ今の報告について、ご質問等ございましたらお願いします。

(質問なし)

(3) 令和5年度 市内学童保育所の活動紹介について

三上第1.2学童保育所と中主第1~4学童保育所の活動について委員の所長より報告する
～活動内容の映像とともに紹介～

委員 三上学童保育所の施設と地域の方との交流についてお話をさせていただきたいと思えます。まずは、三上学童保育所の施設についてお話させていただきます。施設は三上山と野洲川に挟まれた位置にあり、三上小学校の南館1階の空き教室を利用させていただいています。

小学校で「さようなら」の挨拶後下校し、すぐに学童保育所の靴箱に靴をしまい、「ただいま～」と慣れ親しんだ学校の廊下を歩いて、子どもたちは各所の部屋へと入っていきます。部屋の中は、学校と同じ雰囲気はありますが、台所や遊具もあり、子どもたちは、学校の中とはいえ、学童へ帰ってきたなと言う安心感を見せてくれています。

三上学童保育所は小学校と同様、小規模の施設です。しかし、子どもたちはこども園からの友だちも多く、上下関係、男女関係なくみんなが知っているという、とてもアットホームな雰囲気があります。施設の前には運動場もあり、すぐに遊びに行くことができ、雨の日は体育館をお借りして、子どもたちは目いっぱい体を動かし楽しんでいます。年中人気なのが、ドッジボールです。人数は少ないながらも工夫を凝らし、遊んでいます。今後も三上小学校と連携を図りながら、子どもたちに安心してもらえる場を提供していきたいと思えます。

次に、地域の方との交流についてお話しします。

三上学童保育所では、コロナ禍前から、南桜にあります「ケアホーム えまい」さんとの交流が行われていました。その内容は、学童保育所でご家庭から預かったペットボトルキャップを集め、そのペットボトルキャップを利用者さんへお渡しするというものです。コロナ禍中は、交流することができませんでしたが、今年度になり、「えまいさん」から、また、子どもたちからペットボトルキャップを受け取りたい」とお話をいただきました。「えまいさん」との交流を知っていた児童も今は5、6年生のみとなりました。

1～4年生の児童たちは知りません。お話をいただいてから取りに来られる日までに子どもたちにも、「えまいさん」との交流について話をしました。

当日、7月6日に利用者さんと施設の方が学童保育所へきてくださいました。

下校の都合もあり1、2年生のみの参加となりましたが、子どもたちからペットボトルキャップを渡しました。また、施設の方から、ペットボトルキャップがどのようになっていくにかをお話いただきました。最終は、花を植えるプランターになることを教えてもらい、子どもたちは真剣に聞きいていました。

また、祇王にあります特別養護老人ホーム「ぎおうの里」さんに、野洲市内の学童保育所の子どもの作品を展示しています。

三上学童保育所は、7月を担当し5、6月に子どもたちに協力してもらい、作品を完成させました。「にじいろのさかな」と「世界に一つしかないオリジナルの車」を作りました。

完成したところを子どもたちには見てもらえませんでした。利用者の方、施設の方から喜んでもらうことができました。今年度は「ぎおうの里さん」から「スマイルギフトプロジェクト」として、展示をしてくれた子どもたちにお礼を伝えに学童保育所をまわる活動をされており、11月30日には、絵本を持って利用者の方と施設の方がきてくださいました。

元気な声で子どもたちは挨拶し、とても和やかな雰囲気でも包まれていました。

施設の方からは、子どもたちに「認知症って知ってるかな?」「子どもたちの中でも聞いたことはあるかな?」と問いかけをしていただきました。

絵本は「とかげのアンソニー」といい、認知症を知れる絵本を寄贈していただきました。

「えまいさん」「ぎおうの里さん」との交流は、子どもたちにとって小さな出会い・交流かもしれませんが、自分たちの住んでいる野洲市には多くの施設があり利用されている方も様々であることを知ってもらえたらと思っています。

委員 今年の5月、コロナ禍の分類が変わり、感染防止対策が緩和され、みんなで遊ぶ学童保育本来の生活に戻すことができ、ほっとしています。中主小学校は、校舎改修工事が続き、仮設校舎の設置により運動場が狭くなり遊びが制限される状況はまだですが、「友だちと遊べるから嬉しい」学童保育の生活を、これからも工夫していきたいと思っています。今年度の中主学童保育所の活動をご紹介します。

5月、昨年度に引き続き、今年度も日赤奉仕団西河原支部の皆様にお世話になり、1年生がヒマワリの苗植えを行いました。最初の、福島の種であるお話も静かにしっかりと聞く姿がありました。中主幼稚園でもこの取り組みが行われており、覚えている子もいました。「大きくなあれ」と大きな掛け声と一緒に、みんなで願いを込めて丁寧に植えました。昨年は猛暑により咲いてもすぐ枯れてしまい花を咲かせることはできませんでした。

プランターでは限界があるかもと、今年は背の低いタイプの苗を用意して下さいました。おかげで、昨年よりはたくさんの花が玄関を彩り、1400個の種を採ることができました。

11月には、種から育てた春に向けてのいろいろなお花の苗を用意して下さい、1年生にプランターに植えてもらいました。「新しい1年生が入ってくる頃には咲くかなあ」と色とりどりの花が春に咲くのを今から心待ちにしている子ども達です。

夏休みは季節児童のための机が増え生活室は狭くなる上に、連日の猛暑でほとんど外遊びができず、毎日「今日は、外行ける？」と、子ども達にとっては体力を持て余してしまうこともあり、そのパワーを室内遊びの充実へと向けられるよう、準備はしてきましたが、試行錯誤の繰り返しでした。

アイロンビーズや夏祭りの準備、風鈴作り、電車のペーパークラフト等、比較的静かに取り組んでくれる工作をたくさん活動に取り入れ、楽しむ姿は見られましたが、何より外遊びが一番！の子ども達の有り余るパワーをうまく発散させてあげるためにはどうしたらいいのかの課題も残る夏休みとなりました。

野外活動は、昨年半日の行程で「青年の城」で焼杉工作を行いました。今年、お弁当を持って、「大津市科学館」へ行くことができました。班やペアで様々な展示や体験コーナーを回り、「どうなってる？」「なにこれ！」と科学の不思議や面白さに触れ、子ども達も目をキラキラ輝かせていました。

野外活動を行った週の週末休みにも「先生、もう一回科学館に行ってきたで～」と言う子ども達がいたり、楽しかった思い出の場所になってくれたことを嬉しく思います。

外部講師によるけん玉教室は、コロナ禍のここ2年間は密を避けるため、徒歩10分くらいのコミセンなかさとを会場にお借りしていました。暑い中の移動には、傘やクールタオルの準備を保護者をお願いするなどの熱中症対策も行いましたが、今年は、各生活室でのやり方に戻すことができました。講師の先生や、連れてきてくださるけん玉名人の小中学生の凄技は感動的でした。刺激を受けてか、普段けん玉をあまりやらない子も、けん玉教室の後は、コツコツと練習する子が増えました。

カロム大会も夏休み恒例の4所の行事です。コロナ禍では、けん玉教室同様、密を避け、コミセンなかさと大ホールや中主小学校のトレーニングルームに移動して行っていますが、今年は生活室で行うことができました。

日頃鍛えた腕で熱戦が繰り広げられ、3学童保育所の6年生ペアが、見事優勝トロフィーを獲得しました。ちなみに秋のカロム大会では、第4学童保育所に優勝トロフィーが移り、第3学童保育所の児童は、「トロフィーを取り戻すぞ～」と練習に熱が入っています。

また、今まで4所合同の大会はダブルスだけだったのですが、「シングルスもやりたい！」の声が上がり、冬休み前に第1回を行いました。優勝者は、5年生の実力者でしたが、低学年の児童も健闘し、思わぬ面を見せたり「自信がないけど申し込んでみよう」とチャレンジする姿も見られました。

夏のお楽しみ会や、チャレンジランキングでは、社会福祉協議会からカーレット、パターゴルフ等の新しい遊具をお借りしたり、指導員や子ども達が射的やヨーヨー等、手作りして準備しました。

高学年を中心に一緒に行事を作り上げていく姿が見られました。それぞれ工夫しながら自分の役割を果たす姿が頼もしかったです。

10月、赤い羽根共同募金の街頭啓発活動に、3年生女子9名がフレンド마트中主店とイオンビッグの2か所に分かれ参加しました。

事前に活動の趣旨や内容の事前学習を行ったところ、「車椅子を買ったり、お弁当を配るのに使うんやろ」とか、「知ってる。おばあちゃんがお弁当配るお手伝いしている。」と身近に感じていることがわかり、逆にこちらが、地域で活動している方が大勢おられることに頭が下がる思いでした。

「大きな声で元気よく呼びかけできるかな？」と問いかけると「頑張る！」と答えていた子ども達でしたが、最初は緊張と恥じらいでなかなか声を出せずにいて「どうしたら募金してもらえるの？」と、ちょっと不安にもなっていました。が、「がんばってね」と募金に協力して下さる市民の方々に励まされて、自信が付いたようで「赤い羽根共同募金にご協力お願いします」と大きな声で呼びかけることができました。

子ども達のご家族が応援に来てくださったり、予定を少し早めて帰ろうかと伝えたら、「おばあちゃんが来る予定だからまだいたい」という子がいて、みんなで立ち続けました。

募金に協力して下さった市民の方々の温かさ、優しさに触れ、「(募金して頂いたことが)嬉しかった！」と活動後に話していた子どもたちの表情は、いつもより柔らかい笑顔が見られていました。

冬休みに、中主学童保育所から徒歩10分ほどの所にある駄菓子屋さん、子ども達と買い物に行ってきました。

当日に食べるお菓子で、金額を考えて使うこと、他のお客さんもいるから迷惑にならないようにすること、買い終わったら外に出て静かに待っていること、行き帰りは交通事故に気を付けることなど確認してからのお出かけでした。

カゴと電卓、お買い物メモを用意し、上級生が下級生の面倒を見る体制でしたが、「僕、そろばん習ってるし、こんな暗算でできる」とさっさとすます2年生や、計算以前に、選ぶのに時間がかかる6年生と様々な姿が見られました。

放課後デイサービスのグループが2組来られ、レジが少し混む場面もありましたが、お店の方は嫌がることなく、「学童さんがかごを持ってきてくださったので助かりました」と逆にお礼を言われました。「子どもさん達の嬉しそうな顔を見るのが楽しみなんです。」との言葉に、子ども達が地域の方々に見守られていることを感じました。

事務局 報告の中にありましたように、長く感染対策で制限のあった活動ですが、今年度からほぼ制限のない形で、子ども達に色々な体験活動を推進しています。

「募金活動」については、報告のあった中主学童保育所以外に、野洲学童保育所の児童も活動に参加していただいています。

今後も福祉体験を含む様々な活動を推進することで、学童保育所での生活の充実に努めて参ります。

4. その他

会長 何かご質問等ございましたら、お願いします。

委員 人数に見合った職員配置、確保は出来ていますか？国から常勤2人分ぐらいの補助金が出るようなことを聞きましたので、すでにされていると思いますが、職員さんには処遇改善のようなことを考えてあげてほしいと思います。

事務局 指導員の確保は現実課題であり、処遇については野洲市より処遇改善にむけた手当をして頂いています。処遇の改善はありますが、現実には指導員は不足しています。

広告やホームページ等求人募集をしていますが、現状なかなか応募も少なく、特に非常勤職員の募集については問合せすらない状況です。

何とか100%ではないですが近いかたちで年度を迎えさせていただきますが、今後も引き続き募集をしていきたいと思っております。他の業界でも言われておりますが、人材不足を感じております。学童保育所の良さを多くの方に伝えさせていただき、一人でも多くの方に指導員になっていただけるように努めます。

委員 保護者会への名簿データ提供のお願いをしたいです。

所長さんから個人情報の関係で出来ないと言われましたが、何とかならないでしょうか途中入所や退所される方もおられてますので名簿を確認することが難しいです。

保護者会費も現金での徴収が大変で、利用料と一緒に徴収できないか検討してもらいたいと思います。

事務局 名簿の件でご意見いただきありがとうございます。

保護者会活動での困り事ということで、ご意見いただきましたので、野洲市の担当課と共有し協議検討してまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

事務局 次回の日程について

日時等の詳細は会長・副会長と協議させていただき決めたい。

予定では、令和6年3月中頃を予定している。